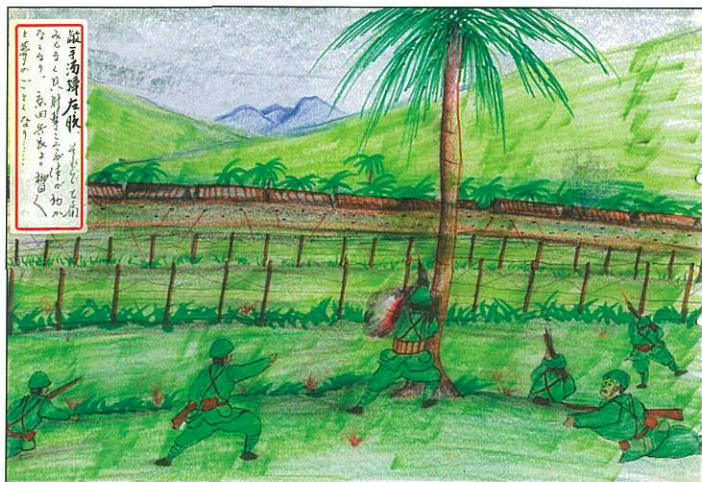


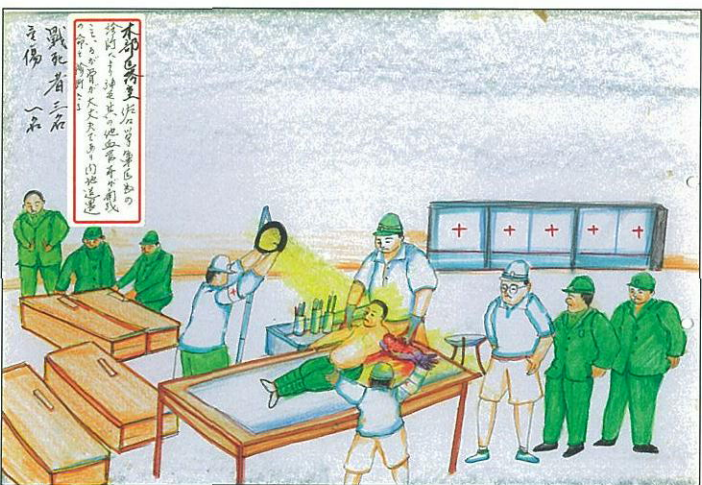
展示絵画 [一部]



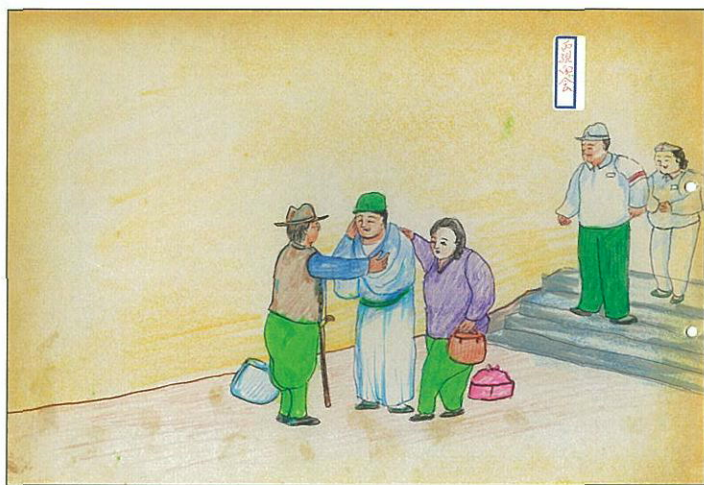
左腕を負傷



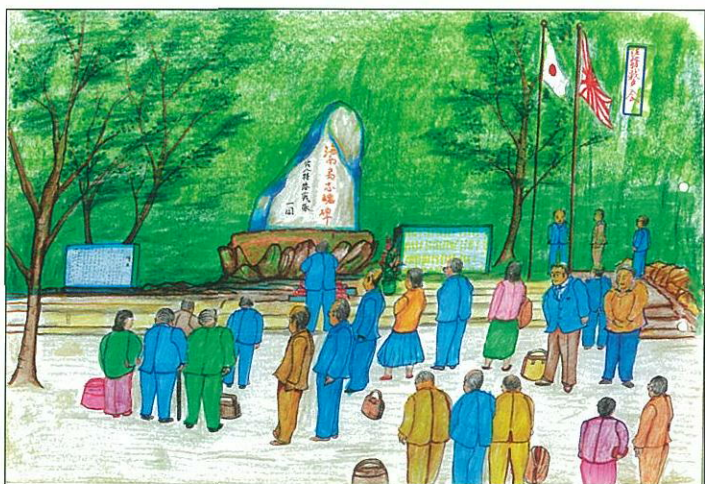
担架で谷川を下る



軍医の診断



両親との再会



戦友会の慰霊祭

【戦傷病者の略歴】

柳田幸敏さんは1942(昭和17)年9月、20歳の時に海軍に入団、1944(昭和19)年11月、中国で左肩と左腕を負傷しました。すぐに手当を受けましたが病院へ後送され、その後、病院船で故郷に戻り、内地の病院に收容され終戦を迎えました。1945(昭和20)年9月に海軍病院を退院し、その後、郵便局に復職し、58歳の退職まで勤務しました。郵便局を退職して60歳を過ぎた頃、戦地での生活を描いた絵を普段より参加していた戦友会に持参したところ、絵を見た戦友の薦めで、その後、たくさんの絵を描くことになりました。

これらは自らの戦傷病者としての戦中の労苦を描いた戦地での受傷の体験だけでなく、亡き戦友への想いをこめて当時の情景を細部にわたり描いた絵です。今回はこれらの絵の中から、徴兵検査から入団、出征、戦地での軍隊生活、受傷、搬送、治療までの体験を描いた絵を展示いたします。